

建設汚泥の短時間・
高品質再生処理確認

泥土リサイクル協会
鹿児島で現場見学会



泥土リサイクル協会（木

村孟理事長）は、鹿児島県内の会員企業である永田重機土木（鹿児島市、永田雄一社長）の産業廃棄物処理施設で2日、「鹿児島3号東西道路建設工事」（発注・九州地方整備局）から排出されている建設汚泥を粒状固化処理技術で再生処理する現場の見学会を開いた

＝写真＝

九州地方整備局鹿児島国道事務所をはじめ、鹿児島県、鹿児島市の担当者らが参加。同協会が推奨している粒状固化処理装置を使い、高含水泥土（当日の含水比は110%程度）が30

秒程の短時間で固化処理されるのを見学したほか、その施工品質の高さを確認した。

同協会の野口真一事務局長は見学会で「建設汚泥処理士の受け皿として、工事内利用と工事間利用が促進されていないのが現状だ。このような見学会を通して、発注機関の方々に再生処理技術の処理品質の確かさを確認していただくとともに、発注者主導型の工事間利用に向けてご理解とご協力をいただきたい」と述べた。